

海外生活 エッセー

ソウル事務所

地方自治体職員が見た「非常戒厳」

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所 所長補佐 佐岡 政樹 (愛媛県派遣)

今回は、2024年末に発生した、韓国の尹錫悦(ユン・ソンニョル)大統領による「非常戒厳」の宣布について、一地方公務員が現地体験した様子をお伝えできればと思います。

→ 非常戒厳の宣布

2024年12月3日(火)23時25分付で、在大韓民国日本国大使館から届いた「韓国大統領による「非常戒厳」の宣布について(第1報)」とのメールが、全ての始まりでした。

本文を確認すると、「尹錫悦大統領は本3日夜、緊急の談話で「憲政秩序を守るため、非常戒厳を宣布する」と表明しました。具体的な措置等は不明ですが、今後の発表等に留意してください」との旨記載されていました。

状況が分からないまま、現地のニュースなどを確認すると、深夜にも関わらず、国民が国会議事堂に集結してデモを行っている様子が報道されており、何やら不穏な、物々しい雰囲気が漂っていました。

→ 非常戒厳の解除

不安を覚えながらも、自宅近辺は安全である点を確認した後、一度睡眠を取り、翌朝起床すると、韓国国会において、前夜に宣布された「非常戒厳」の解除要求決議が可決・成立し、これを受けて、宣布から約6時間後に大統領によって非常戒厳が解除された旨の報道がされていました。驚くべきことに、一夜の内に国会議定数300人の内190人が国会議事堂に集結して、全員の賛成によって議決された、との旨でした。

クレアソウル事務所所内のトークグループにおいても、早朝から現地調査員による情報収集が進められ、非常戒厳の解除によって通常業務に支障が無い旨の判断が

下されたため、少し緊張はありましたが、地下鉄に乗って出勤しました。道中は怖い程にいつもどおりで、新事務所のある明洞周辺においても観光を楽しむ人々が行き交っており、報道が本当かと疑う程でした。

→ 非常戒厳のその後

事務所に着いた後、所員と話す中でようやく現実味が湧いてきて、自分がこの国の歴史的な転換点の中心に居るのだ、との実感が湧いてきました。その後の動きは報道のとおりで、4月現在に至るまで、市内各所においてデモは発生しているものの、発生箇所は限定されているため、特に危険を感じるようなこともなく、生活することができています。

近頃は、現地のニュースなどで「民主主義」や「自由」といった単語を目にする場面が増えたように思います。現地で貴重な経験ができていたことを再度認識して、この国の行く末を引き続き見守りたいと思います。



非常戒厳から数日後に開催されたデモの様子